

本当の自立を教えてくれたインチャ癒し

12期 坂田 麗湖

インチャコースを受講するきっかけは、ホメオパスのプロフェッショナルコースを受講してインチャ癒しが大切だと感じたからです。自分も多少インチャがあるだろうからインチャを癒して自分を整えたい、クライアントの方にもインチャ癒しの大切さを伝えたいと思いました。

受講中、子供時代の悲しく辛い思い出を封印して生きてきたことが分かり、思い出す度に自分のことがみじめに感じるがありました。でも自分の陥りやすいパターンの根本原因が分かりました。ホメオパスコースの授業でインチャ癒しの講義もありましたが、一年間かけてインチャ癒しのコースを受講したことで自分だけではたどり着けないところまでインチャ癒しができました。

幼少期の出来事で思い出すのは、夕暮れ時一人で部屋にぽつんというシーンです。その時の感情はいつも無感情です。なぜこのシーンを思い出すのかずっと分かりませんでした。しかし、インチャ癒しをする中で、ある出来事を思い出しました。大学生の頃いつも夜いるはずの母がたまたま家にいない時がありました。なぜだかすごい恐怖心に襲われ自転車で近所中を必死になって母を探し回ったことがあったのです。実際母は多少遅かったけど帰宅しましたし、なぜ取り乱したのかずっと分かりませんでした。でも幼少期の頃あのシーンにいる私の感情とリンクすると腑に落ちて泣けてきました。幼少期の一人ぼっちな私は無

感情ではなかったのです。「いつも私だけひとりぼっちにしないで！ひどいよ！わたしも兄妹と買い物に連れて行ってほしい！」「買い物に行く時は、だまっていかないで！」「何も知らずに一人ぼっちになると、とても怖いし悲しいよ！」「一人でちゃんと大人しく留守番できてえらいでしょ？ほめてくれてもいいんじゃない！」と悲痛な気持ちで言っているようでした。分かってあげられてよかったです。もちろんその時の麗湖ちゃんを救うためにインチャ癒しをしました。

以上の出来事はインチャ癒しを始めた最初の頃のエピソードです。ちょうど一年前は母が大好きでよくでかけたり、しょっちゅう電話したりする、大変仲良し親子でした。このインチャ癒しをきっかけにだんだんと私が育った家庭は普通と思いたかっただけでやっぱり普通ではなかったと感じました。私がしたいことを「やめなさい。」とことごとく否定したし、勉強ができればそれでよいという感じだったし、頼れる存在がなく孤独で褒められたこともないし、周りの子が当たり前にしていたことも私達兄妹はできないことが多くて友達のことをうらやましかったし、父は酒好きで酔っばらって機嫌が悪くなるとお膳をひっくり返すことも多く、温かい一家団欒などなかった幼少時代であったことを思い出しました。この親は私に何とひどいことをしてくれたのだ！私はずっと自信がなく自己肯定感も低かったです。大人になって、うまくいかないことの連続で苦勞してきました。それはこの親たちが私を大切にしなかったからそれが現実になっていたのだ。と怒りがわいてきました。

親に対してイメージの中で言いたいことを言えばいいのに、それが出来ません

でした。父はすでに他界しているので、年老いた母に辛かった出来事や私の思いは無視され続けてきたこと等をぶちまけてしまいました。

母は私を「親不孝者！」と言いました。私はそうかもしれないけど、子供時代にしたことは謝ってほしいと言いました。「今更言えない。」とのことでした。その後も私の腹の虫は収まらず折に触れて謝って欲しいと伝えましたが「できない。」とのことでした。子供が苦しんでいるのなら謝るのが親じゃないの！情けない親に育てられたのだと本気で思いました。あきらめの境地でした。一年前は親とは仲良しで、大好き！となっていました。実はどこか親に考えを変えて欲しいという期待や愛されたいという依存心があったことにも気づきました。

そんな時、寅子先生は授業で「嫌な相手にも負ける」ということを仰っていました。それをするのはきつかったです。母に謝って欲しいと言ったが私ですが、反対に母を傷つけたことを謝れるのかな？3人のワンオペ育児で大人しい私にまでかまっていられなかったよね。お金がないのに洋服買えないよね。父は神経質で好きだから機嫌損ねないようにするのに忙しかったよね。だから誕生日を祝うなんてできないよね。母も幼少期の頃、かまってもらってないからわが子にできないんだよね。そう思うと悲しくなっていました。だんだんと怒りが消えていき謙虚な気持ちが出てきました。

自分が欲しい愛情をもらいたい！とそのことばかりにとらわれていないかな？私が欲しい愛情表現はしてくれないけど、母は高校時代に通学する時よく玄関

から出て私を見送ってくれていたよね。母なりに気にかけてくれていたね。なんでもダメという母だったけど、心配だったんだよね。教員時代に孫の面倒を一生懸命みてくれたよね。孫がかわいいのもあるけど、私が出勤できるように毎朝早くにきてくれたね。10年くらい愚痴もこぼさずやってくれたよね。私は感謝が足りなかったのではないかな？母は私に「謝れない。」と言ったけど、頑固な母のことだから心の中では悪いと思っているのかもしれないね。子供の気持ちに寄り添えない親と思ったけど私こそ母の気持ちを想像することができていなかったね。「それぞれに正しい。」という寅子先生の言葉が私なりに理解できたように感じました。

硬くなった心だったから母の立場を想像することが出来ずにいました。母も辛い人生にも関わらず前を向いてたくましく生きてきました。ガッツがあります。天真爛漫で母がいると周りは明るくなります。孫たちに人気のおばあちゃんです。母も年と共に変わってきている面もあるのだと思います。親に欲しい愛情がもらえなくても自分で自分を愛せばいい。私が本当の自立ができるように母は手伝ってくれた存在です。今現在、母に謝れていませんができる気がします。

私は一年半くらい前から更年期におこりやすいばね指の症状が出ていました。最初は左の親指に出て治ると違う指に症状がでるという感じで常にどこか一本の指がばね指でした。相談会で菊田先生から頑固さからも来ているのではないかとアドバイスしていただきました。レメディーもとっていましたが、インチャ癒しが

すすみ、心の硬さも緩んだことで最近になって症状がなくなりました。症状はありがたい。心と体は繋がっていると改めて感じた体験でした。これからも、インチャ癒しを続けていき自分の価値観を緩めていきます。ホメオパスとしても、インチャ癒しの大切さをクライアントの方に身をもって話すことができます。一人では到達できないところまで大切な気づきを与えてくださり本当にありがとうございました。